

令和5年度 森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート

※○数字は「令和5年度（2023年度）みんなで支える森林づくりレポート」の資料番号

【目次】	ページ
① 信州の森林づくり事業（人工造林・初期保育の嵩上げ）	・・・ 1
② みんなで支える里山整備事業（防災・減災のための里山整備）	・・・ 2
③ 開かれた里山整備事業	・・・ 3
・開かれた里山整備事業	
・開かれた里山整備・利用事業	
④ あたりまえに木のある暮らし推進事業	・・・ 5
・広く県民が利用する施設等の木造・木質化	
・木工体験の推進支援	
・長野県産材CO2固定量認証	
⑤ 信州やまほいく認定団体保育環境等向上事業	・・・ 7
⑥ 学びと育ちの森づくり推進事業	・・・ 8
⑦ まちなかの緑地整備事業	・・・ 10
⑧ まちなかの緑地整備事業緑地保全（補助）事業	・・・ 11
⑨ 観光地周辺の街路樹整備	・・・ 13
⑩ 森林サービス産業総合対策事業	・・・ 14
・森林サービス産業活動支援事業	
・森林サービス産業人材育成支援事業	
・地球温暖化防止吸収源対策推進事業	
⑪ 信州ネイチャーセンター構築事業	・・・ 16
⑫ 多様な林業の担い手確保育成事業	・・・ 17
・林業認知度向上対策事業	
・安全福利厚生対策事業	
・新規就業者確保促進支援事業	
⑬ 市町村森林整備支援事業	・・・ 19
・ライフライン等の保全対策	
・観光地の景観整備	
・緩衝帯の整備	
・森林の病虫害被害対策（森林外・未被害市町村被害木処理）	
・森林の病虫害被害対策（枯損木の利活用）	
⑭ 河畔林整備事業	・・・ 21
⑮ みんなで支える森林づくり推進事業	・・・ 22

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）					
事業名	① 信州の森林づくり事業 （人工造林・初期保育の嵩上げ）		部局	林務部	課・室
			実施期間	R5 ～	E-mail shinrin@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	I 森林の若返り促進と安全・安心な里山づくり	小項目	1 再造林の加速化	

1 現状と課題

現状	○ 森林資源は着実に充実してきている一方で、林業が本来持っている「植えて、育てて、伐って、使って、また植える」といったサイクルが必ずしも循環しているといえない状況である。
課題	○ 主伐とその後の再造林を進め、人工林の若返りを図ることが喫緊の課題である。 ○ 森林の高齢級化が進み、CO2吸収能力も長期的に減少することが懸念される。

2 事業目的及び内容

2050ゼロカーボンの実現に向け、本県の森林がCO2吸収能力を発揮できるよう若い森林への更新を進める必要があることから、森林所有者の費用負担が大きい主伐後の再造林とその後の下刈り等に必要な標準的な経費の10/10を補助し、再造林の加速化を図る。			
事業主体	市町村 森林組合 NPO法人等	補助率	10/10 (3/10の嵩上げ)

3 予算及び決算額

(単位：千円)

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	93,600	174,580				268,180	
	補 正 予 算						0	
	合 計	93,600	174,580	0	0	0	268,180	
決 算 額		106,685					106,685	②防災・減災の里山整備から13,085千円を流用
（参考）他財源を含む事業費		356,416					356,416	国庫補助金及び県義務負担分を含む
次年度への繰越（枠外）		0					0	

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標 達成率
①	再造林面積	目標	260ha	420ha				680ha	2,900ha	9%
		実績	247ha					247ha		
達成状況・成果等			○ 再造林（植栽）面積は目標を概ね達成。 ○ 主伐後の再造林（R 6 春植え）に向けた準備（地拵え等）作業を含めると、目標以上の森林で行われる取組を支援し、森林の確実な更新に寄与した。 ○ コンテナ苗も全体の23%で活用される等、作業の省力化に向けた取組等も併せて進められている。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
☐ 現行どおり 実施	① 地形や林分構成が異なるなど（主伐・）再造林の取組進度に地域差が生じている。	① 再造林に係る地域差の解消を図るため、急峻な地形が多い地域での再造林等作業を効率化するための架線設置・撤去等に係る支援に取り組む。
☒ 見直して 実施	② 地域により、造林・保育に従事する人員が不足することが懸念される。	② 併せて、保育作業を作業省力化を図るため、省力化機械を導入し効率化を図る取組を支援する。
☐ 事業を 終了	③ ニホンジカの生息密度が高い地域では、苗木の食害が繰り返し発生する等、植栽後の確実な更新に向けた対策が必要となっている。	③ 食害被害の原因となっているニホンジカの捕獲圧を高め、苗木の被害を防止するため、再造林地周辺での捕獲対策を支援する。

県民会議・地域会議等からの意見	○ 森林所有者の山の整備に関する意欲向上に寄与していると感じる。 ○ 主伐・再造林の推進に伴い増加する苗木の需要に対して安定して供給できる体制が必要。 ○ 人工林の若返りを進める必要性について、継続的に県民に広く周知していくことが必要。
-----------------	--

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）						
事業名	② 信州の森林づくり事業 （みんなで支える里山整備事業）		部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
			実施期間	H30 ～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	I 森林の若返り促進と安全・安心な里山づくり	小項目	2 防災・減災のための里山整備		

1 現状と課題

現状	○ 地球温暖化の影響等で局地的な豪雨等による土砂災害や流木被害等が増加している状況。 ○ 地質や地形などから災害の危険性が高い里山で未整備となっている森林がある状況。
課題	○ 各地で頻発している土砂災害や流木被害等を防止するための間伐等の里山整備を早急に進めることが喫緊の課題である。

2 事業目的及び内容

未整備の里山のうち、防災・減災のための優先的に整備が必要な里山の間伐等の森林整備を支援する。 ＜防災・減災のための里山の間伐（第3期までの未整備分）：概ね1,600ha/5年間＞			
事業主体	市町村 森林組合 NPO法人等	補助率	9/10※
※国庫補助を併用する場合には、7/10に対して森林づくり県民税から2/10を嵩上げ			

3 予算及び決算額

（単位：千円）

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	148,200	156,200				304,400	
	補 正 予 算	0					0	
	合 計	148,200	156,200	0	0	0	304,400	
決 算 額		91,036					91,036	①再造林の加速化へ13,085千円を流用
（参考）他財源を含む事業費		100,099					100,099	国庫補助金及び県義務負担分を含む
次年度への繰越（枠外）		0					0	

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 （R 9）	第4期目標 達成率
①	間伐面積	目標	400ha	400ha				800ha	1,600ha	10%
		実績	160ha					160ha		
達成状況・成果等			○ 事業実施に必要な体制整備や地元調整等に不測の時間を要したことから、間伐面積は160haに留まり目標面積を下回った。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施	① 小規模な林業事業者等への制度周知が十分でなく、事業が活用されない箇所があった。	① 地域や事業者別に説明会等を実施し、丁寧に周知に取り組むことで、事業内容の普及や活用促進を図る。
□ 見直して実施	② 第4期からは、条件に応じて国庫補助との併用が可能となるよう制度を見直したが、事業制度の周知が不足し事業の活用に繋がらなかった事例があった。	② ヒアリング等を通じて森林施業の計画等について助言することで、国庫と森林税を併用した事業の活用を促すなど、早期に必要な里山の整備が実施されるよう普及指導に取り組む。
□ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 事業実施に必要な手続き等、時間を要するものもあることから、事業の活用がより一層進むよう課題を整理して運用の見直しを図られたい。
-----------------	---

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）						
事業名	③ 開かれた里山整備・利用推進事業			部局	林務部	課・室 信州の木活用課・森林づくり推進課
				実施期間	R5 ～	E-mail shinrin@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	Ⅱ 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり		小項目	3 県民が広く親しめる里山づくり	

1 現状と課題

現状	○ 長野県ふるさとの森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」は113地域（R5年度末現在）となり、地域住民の主体的な参画による里山の整備や利活用が進んでいる一方で、県民等がレクリエーション等で広く親しめる里山が不足している。
課題	○ 里山がもたらす恩恵を広く県民の皆様実感していただくため、多くの県民等が安心して気軽に利用できる「開かれた里山」の整備や仕組みづくりが必要となっている。

2 事業目的及び内容

「里山整備利用地域」の取組を更に進め、多くの県民や県外から長野県を訪れる方が安心して気軽に利用できる「開かれた里山」の整備と仕組みづくりを支援する。			
事業主体	市町村、森林組合、里山整備利用推進協議会 等	補助率	3/4～10/10

3 予算及び決算額

（単位：千円）

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0				0	
	当 初 予 算	55,590	79,472				135,062	
	補 正 予 算	▲ 21,000					▲ 21,000	
	合 計	34,590	79,472	0	0	0	114,062	
決 算 額		28,293					28,293	
次年度への繰越（枠外）		0						

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値（R 9）	第4期目標達成率
①	県民が広く親しめる里山整備利用地域の数	目標	10箇所	10箇所				20箇所	50箇所	32%
		実績	16箇所					16箇所		
達成状況・成果等			○ 令和5年度から新たに開始した制度であったものの、様々な機会を通じて制度の周知や取組の支援等に努めた結果、目標を上回る16地域において「開かれた里山の整備・利用計画」が承認され、「開かれた里山」の整備及び利用に向けた取組が開始された。 ○ 一方で、「開かれた里山の整備・利用計画」の作成に時間を要し、森林整備の取組を次年度へ延期した箇所も見られた。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施	① 令和5年度から取組を開始した16地域や今後取組を開始する地域において、住民等が主体となり多くの県民等が安心して気軽に利用できる「開かれた里山」として整備するための取組を引き続き継続することが必要。 ② 県内の「開かれた里山」に関する情報を広く周知し、多くの県民等の利用につなげることが必要。	① 「開かれた里山」の整備等に取り組む地域に対して、引き続き森林整備や仕組みづくり、資機材導入等の支援を継続する。 ② 県内の「開かれた里山」に関する情報を収集しHP等において発信することで、多くの県民等の「開かれた里山」の利用に繋げる。
□ 見直して実施		
□ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 開かれた里山取組事例集は、里山のワクワク感が伝わりよい媒体となっている。 ○ 活動に取り組む方による交流の機会を設けて、取組の更なる普及やニーズの把握に努められたい。 ○ 県民により身近に受け止めてもらえるよう、「開かれた里山」の看板を設置を促すといいのではないか。
-----------------	---

細事業一覧（令和５年度実施事業分）

事業名	③開かれた里山整備・利用推進事業				部局	林務部	課・室	信州の木活用課・森林づくり推進課
No.	細事業（取組）名							
1	開かれた里山整備事業				予算	34,400	決算	8,907
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容					成果
	補助金	9/10	開かれた里山内の景観の向上や安全性の確保のため修景林間整備のほか、第３期まで取り組んでいた県民協働による里山整備を実施した箇所の継続的な下刈り等の取組を支援					整備箇所数 7箇所

No.	細事業（取組）名							
2	開かれた里山の整備・利用推進事業				予算	19,190	決算	17,417
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容					成果
	補助金	10/10 3/4	「開かれた里山」の仕組みづくりや里山の自立的な整備・利活用に向けた条件整備に要する経費を支援					補助対象地域数 24地域

No.	細事業（取組）名							
3	開かれた里山の整備・利用推進事業				予算	2,000	決算	1,969
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容					成果
	委託		「開かれた里山」の取組事例集、安全管理マニュアルの作成					取組事例集等の作成 1件

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）					
事業名	④ あたりまえに木のある暮らし推進事業		部局	林務部	課・室
			実施期間	R5 ～	E-mail
基本方針に示す項目	大項目	Ⅱ 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり	小項目	4 広く県民が利用する施設等の木造・木質化	県産材利用推進室
					mokuzai@pref.nagano.lg.jp

1 現状と課題

現状	○ 地域の森林の持続的管理には、地域で利用する木材を地域で生産する地消地産の取組が重要であるが、県民が県産材に普段から接し、その良さを感じる機会が必ずしも身近にあるとはいえない状況。
課題	○ 県民が木材と触れ合う機会・場を創出し、県産材利用への意識醸成と木材需要の創出を図ることが喫緊の課題である。

2 事業目的及び内容

県民の県産材利用に対する意識醸成を図るため、広く県民が利用する施設の木造・木質化を進め、「あたりまえ」に県産材を利用する環境づくりを進めるとともに、安全・安心に過ごせる子どもの居場所への県産材利用や木工体験活動を支援する。			
事業主体	県 民間事業者等	補助率	1/3～3/4

3 予算及び決算額

(単位：千円)

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	4,234	0	0	0	4,234	
	当 初 予 算	40,000	40,000				80,000	
	補 正 予 算	▲ 25,016					▲ 25,016	
	合 計	14,984	44,234	0	0	0	59,218	
決 算 額		10,317						
次年度への繰越（枠外）		4,234						

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標 達成率
①	木造・木質化等の 箇所数	目標	11箇所	11箇所				22箇所	55箇所	13%
		実績	7箇所					7箇所		
達成状況・成果等			○ 広く県民が利用する施設の木造・木質化等の実施箇所について、目標11件のところ、実績7件と下回った。 ○ 県内の新聞にて「魅力ある木質空間」が利用者に喜ばれ、事業が好評であることが取り上げられるなど、本事業により、県民が木材と触れ合う機会・場を創出したことを確認できた。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり 実施	① 建築の資材高騰等の影響を受け、建築計画の見直しが必要になったこと等から事業の完了期限に間に合わず、申請ができなかった事例があった。 ② 一層の事業の活用を促進するため、情報発信の方法を工夫する必要がある。	① 事業者が余裕を持った事業計画を立てられるよう、募集開始時期を早める等、制度の見直しを検討。
□ 見直して 実施		② 新聞やSNS等による情報発信ツールを利用して民間事業者等が事業について身近に知る機会を増やし、素早く情報が届くようにする。
□ 事業を 終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 特に設計者や施工者に対して県産材の良さや木造設計をPRし、木造・木質化に関心の高い移住希望者や定住者に宣伝・普及することでより木造化が進むのではないかと。 ○ 木造・木質化を進めるためには、木材の二酸化炭素固定機能に関する理解を広める必要がある。 ○ 木工体験が子どもだけでなく大人（親世代）にも好評で、木に親しみを持つ良い機会になっている。
-----------------	---

細事業一覧（令和5年度実施事業分）

事業名	④あたりまえに木のある暮らし推進事業			部局	林務部	課・室	県産材利用推進室	
No.	細事業（取組）名							
1	広く県民が利用する施設等の木造・木質化				予算	38,550 千円	決算	9,053 千円
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容					成果
	補助金 直接	1/3～2/3 －	広く県民が利用する施設や子どもの居場所において、県内の施設の木造・木質化等の支援・推進					実施箇所数 7件
No.	細事業（取組）名							
2	木工体験の推進支援				予算	1,050 千円	決算	1,050 千円
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容					成果
	補助金	3 / 4	小中学生等を対象とする県域で行う木工教室、木工工作に関するコンクール開催への支援					参加人数 4,178人
No.	細事業（取組）名							
3	長野県産材CO2固定量認証制度				予算	400 千円	決算	214 千円
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容					成果
	直接	－	県産材を使用した建築物等のCO2固定量を認証し、認証証書を発行することで「県産材利用の環境貢献度」を周知する機会とし、県産材利用や森林づくり県民税の普及啓発を行った。					認証件数 4件

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）						
事業名	⑤ 信州やまほいく認定団体保育環境等向上事業			部局	こども・若者局	課・室
				実施期間	H30 ～	E-mail
基本方針に示す項目	大項目	Ⅱ 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり	小項目	5 やまほいくのフィールドや学校林の整備等	こども・家庭課	
					kodomo-katei@pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

現状	○ 県独自の制度である「信州やまほいく（信州型自然保育）認定制度」の認定園において、安心・安全に子どもたちが活動するためのフィールド等環境整備を求める声が事業者・保護者ともに多く寄せられている。
課題	○ 認定園において、森林での保育・教育活動の安全性確保や、教育環境を充実させることが必要。

2 事業目的及び内容

信州やまほいく認定園で使用する森林で行う森林の整備やそれと合せて行う付帯施設の整備に係る取組を支援			
・森林整備（林間整備、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、危険木の除去、倒木・折損木処理）			
・付帯施設（東屋の設置、チップ敷き、歩道整備等）			
事業主体	市町村、学校法人、NPO法人等（信州やまほいく認定団体設置者）	補助率	9/10 フィールド整備 1/2 付帯施設整備

3 予算及び決算額

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当初予算	5,800	6,000				11,800	
	補正予算						0	
	合計	5,800	6,000	0	0	0	11,800	
決算額		5,800					5,800	
次年度への繰越（枠外）		0						

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値（R 9）	第4期目標達成率
①	フィールド整備箇所数	目標	8箇所	8箇所				16箇所	40箇所	20%
		実績	8箇所					8箇所		
達成状況・成果等			○ 要望があった8園でフィールド整備8箇所、付帯施設整備2箇所を実施した。 ○ 自然保育を行う上で障害となっている危険木の除去や、落下の恐れのある枝の剪定を行うことにより、子どもたちが安全に自然体験活動を行うことができるようになった。							

5 今後の取組の方向性等

方針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
☒ 現行どおり実施	○ 自然保育の環境を整備するうえで有利な補助事業であるため、今後も引き続きやまほいく認定園に対し、制度の周知を行い、制度の普及促進につなげる必要がある。	○ より有効に整備されたフィールドが活用されるよう、早期の事業募集等に努める。 ○ より多くの認定園でのフィールド整備が進むよう、引き続き事例共有や情報発信等に努める。
☐ 見直して実施		
☐ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 幼児期の森林体験は本質的なものとして身に付き、将来的に森林に関わる担い手になるきっかけとなるのではないか。
-----------------	---

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）						
事業名	⑥ 学びと育ちの森づくり推進事業		部局	林務部	課・室	信州の木活用課
			実施期間	H30 ～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	Ⅱ 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり	小項目	5 やまほいくのフィールドや学校林の整備等		

1 現状と課題

現状	○ 学校林等の教育に身近な森林の手入れが十分行き届いていない等により、子どもたちの森林体験学習のフィールドが十分に確保されていない。 ○ 森林体験学習等を安全かつ効果的に実施するための体制やノウハウも十分ではない。
課題	○ 子どもたちが安全に学習できる森林のフィールド確保が必要。 ○ 効果的な体験学習を実施できる体制の構築が必要。

2 事業目的及び内容

森林に囲まれた環境で育つ長野県の子どもたちが、森林・林業に親しみを感じ、次世代の森林づくりの土台となる豊かな原体験や知識を得られるよう、学校林や地域の里山等の身近な森林の活用を推進する。			
事業主体	市町村 学校法人 NPO法人等	補助率	9/10～10/10

3 予算及び決算額

(単位：千円)

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	6,230	8,710				14,940	
	補 正 予 算	0					0	
	合 計	6,230	8,710	0	0	0	14,940	
決 算 額		5,641					5,641	
次年度への繰越（枠外）		0					0	

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標 達成率
①	学校林等整備の 実施箇所数	目標	10箇所	5箇所				15箇所	30箇所	63%
		実績	19箇所					19箇所		
達成状況・成果等			○ 12校（県立1、その他11校）の学校林で危険木の伐採や除間伐等の森林整備を行い、児童・生徒が森林内で安全に活動できるフィールドが確保された。 ○ 整備後の学校林での活動に必要な資機材の導入や指導者の受入を14校（県立2、その他12校）で行い、効果的な活動の機会が広がった。 ○ 多くの学校林で森林環境教育の活動が展開されたことで、目標を達成した。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
☒ 現行どおり実施 ☐ 見直して実施 ☐ 事業を終了	○ 担当教員の異動等に伴い、森林環境教育の継続が困難となる場合があり、継続的な活動に向けた地域ぐるみの体制構築が必要。	○ 地域の団体等が事業主体となることで活動が定着している地域もあり、森林環境教育の継続的な実施が期待される。 ○ 引き続き、森林環境教育に取り組む学校と地域の団体等との連携を進め、地域ぐるみで継続的な活動が可能な体制構築を図る。

県民会議・地域会議等からの意見	○ 協議会でなければ主体にならない制度となっており、活用のハードルがやや高く感じる。 ○ 地域の山や森林への愛着を持ってもらうことも大切であり、担い手対策にも繋がる取組。
-----------------	---

細事業一覧（令和5年度実施事業分）

事業名	⑥学びと育ちの森づくり推進事業				部局	林務部	課・室	信州の木活用課
No.	細事業（取組）名							
1	森林環境教育フィールドの整備（除間伐・危険木伐採等）				予算	3,600	決算	2,222
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和5年度実施内容				成果	
	補助金	9/10	森林環境教育活動の実施に必要な森林整備、施設の設置及び簡易設備の導入を支援した。（※うち、No2森林環境教育活動への支援との重複箇所 7箇所）				実施箇所数 11	

No.	細事業（取組）名							
2	森林環境教育活動への支援（資器材の導入、指導者の派遣）				予算	1,000	決算	1,900
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和5年度実施内容				成果	
	補助金	10/10	森林環境教育活動を実施するために必要な資機材の導入及び指導者の受入を支援した。（※うち、No1森林環境教育への支援との重複箇所 7箇所）				実施箇所数 12	

No.	細事業（取組）名							
3	県立学校での森林環境教育フィールド整備及び資機材の導入・指導者の派遣				予算	1,630	決算	1,519
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和5年度実施内容				成果	
	直接	-	森林環境教育活動の実施に必要な森林整備、施設の設置及び簡易設備の導入、資機材の導入及び指導者の受入を実施した。（フィールド整備1校、資器材・指導者派遣2校）				実施箇所数 3	

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）					
事業名	⑦ まちなかの緑地整備事業		部局	建設部	課・室
			実施期間	H30 ～	E-mail
基本方針に示す項目	大項目	Ⅱ 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり	小項目	6 まちなかの緑・街路樹の整備	
			都市・まちづくり課	machinami@pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

現状	- 市街地においても木々に親しめる緑化整備を集中的に推進することが求められている。 - ヒートアイランド現象や大気浄化などが問題となっており、市街地の緑化による生活環境の保全も求められている。
課題	市街地等の土地を活用した、地域住民等が利用する身近な緑地の整備が必要。

2 事業目的及び内容

都市において緑地を保全するとともに緑化を推進することにより良好な都市環境の形成を図り、健康で文化的な都市生活の確保に寄与するため、市町村及び民間団体等が行う森林を身近に感じられる市街地の緑化整備等に対する経費に対し、森林税を活用した補助による支援を行う。			
事業主体	市町村 民間団体等	補助率	市町村 1 / 2 民間団体等 1 / 3

3 予算及び決算額

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0				0	
	当 初 予 算	6,000	4,000				10,000	
	補 正 予 算	0					0	
	合 計	6,000					10,000	
決 算 額		1,000					1,000	
次年度への繰越（枠外）		0					0	

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 （R 9）	第4期目標 達成率
①	緑地整備箇所数	目標	2箇所	2箇所				4箇所	10箇所	10%
		実績	1箇所					1箇所		
達成状況・成果等			- 緑化整備の方針について、地元調整が難航したことにより、目標を下回る箇所数となった。 1 箇所の緑地整備を実施することにより、魅力的な緑地が創出され都市の魅力向上に寄与した。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
☒ 現行どおり 実施	緑地整備する土地の確保、土地所有者との調整、整備後の維持管理について、地元調整に時間を要する傾向がある。	- 都市化や住宅地など開発が多い用途地域内において、緑地を確保することにより、生活環境の保全・向上を図ることができた。 - 事業の必要性、維持管理方法等について、説明会等により地元合意形成を図っていく。
☐ 見直して 実施		
☐ 事業を 終了		

県民会議・地域会議等からの意見	もっと身近に、まちの中を歩いて森や木に親しめるとよいと感じる
-----------------	--

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）					
事業名	⑧ まちなかの緑地保全（補助）事業		部局	建設部	課・室
			実施期間	R5 ～	E-mail
基本方針に示す項目	大項目	Ⅱ 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり	小項目	6 まちなかの緑・街路樹の整備	
			都市・まちづくり課	machinami@pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

現状	○ 都市化の進展により、県内の用途地域内の緑被率が1997年から2016年までの20年間で16.8%減少している。
課題	○ まちなかにおける都市機能の充実、コンパクトシティを推進するためにも欠かせないが、緑地の減少や維持管理費等の課題から緑地の機能が有効に活用されていない。

2 事業目的及び内容

令和3年に策定した「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」に基づき、緑地が持つ多様な機能をまちづくりへ活用するため、街路樹をはじめとする緑地を適切に保全し、緑陰による歩行空間の快適性や良好な景観形成など緑地が持つ多様な機能を有機的に活用する。			
事業主体	県市町村	補助率	県市町村 1 / 2

3 予算及び決算額

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0				0	
	当 初 予 算	12,000	13,690				25,690	
	補 正 予 算	0					0	
	合 計	12,000	13,690				25,690	
決 算 額		10,031					10,031	
次年度への繰越（枠外）		0					0	

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値（R 9）	第4期目標達成率
①	緑地の保全延長	目標	6.4km	6.4km				12.8km	32.0km	14%
		実績	4.5km					4.5km		
達成状況・成果等			○ 対象路線のうち、街路樹状況により剪定延長が減となった。 ○ 街路樹剪定を実施することにより、緑陰の確保や良好な樹形保全に寄与した。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
☒ 現行どおり実施	○ さらなる良好なまちなみ空間確保のため、グリーンインフラ推進計画のエリアビジョンを拡大させる必要がある。	○ まちなかの緑地を適切に保全し、街路樹の緑陰による快適な空間や景観形成が進められるよう、市町村と連携してエリアビジョンの見直しに向けた検討を進め、グリーンインフラの保全に引き続き取り組む。
☐ 見直して実施		
☐ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 意見なし
-----------------	--------

細事業一覧（令和5年度実施事業分）

事業名	⑧まちなかの緑地保全（補助）事業				部局	建設部	課・室	都市・まちづくり課
No.	細事業（取組）名							
1	まちなかの緑地保全事業				予算	8,000	決算	7,960
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和 5 年度実施内容				成果	
	直接	-	「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」に基づき緑地が持つ多様な機能をまちづくりへ活用するため、県が管理する街路樹の保全を実施				整備延長 2.0km	

No.	細事業（取組）名							
2	まちなかの緑地保全補助事業				予算	4,000	決算	2,071
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和 5 年度実施内容				成果	
	補助金	1/2	「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」に基づき緑地が持つ多様な機能をまちづくりへ活用するため、市町村が管理する街路樹の保全を支援				整備延長 2.5km	

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）						
事業名	⑨ 観光地周辺の街路樹整備		部局	建設部	課・室	道路管理課
			実施期間	H30 ～	E-mail	michikanri@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	Ⅱ 森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり	小項目	6 まちなかの緑・街路樹の整備		

1 現状と課題

現状	○ 本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな自然を活かした観光地の魅力向上が不可欠。
課題	○ 観光地の魅力向上に向けた主要道路沿線の景観整備が必要。

2 事業目的及び内容

山岳高原リゾートを形成する観光地周辺等の街路において、景観形成のための街路樹の整備を実施する。			
事業主体	長野県	補助率	-

3 予算及び決算額

(単位：千円)

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当初予算	10,000	10,000				20,000	
	補正予算						0	
	合計	10,000	10,000	0	0	0	20,000	
決算額		10,000					10,000	
次年度への繰越（枠外）		0					0	

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標 達成率
①	整備延長	目標	4.0km	5.8km				9.8km	20.0km	17%
		実績	3.4km					3.4km		
達成状況・成果等			○ 諏訪湖など観光地周辺の街路等をはじめ、ビューポイント整備に資する街路樹整備を実施し、観光地の魅力向上に繋がった。							

5 今後の取組の方向性等

方針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
☒ 現行どおり実施	○ 観光地周辺の街路樹整備について、交通量が多いため、通行への影響を考慮して実施区間の精査を行った。	○ より良い景観の整備に繋がるよう、専門家の意見を聞きながら、街路樹の適正な維持管理に努める。
☐ 見直して実施		
☐ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 意見なし
-----------------	--------

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）						
事業名	⑩ 森林サービス産業総合対策事業			部局	林務部	課・室 信州の木活用課・森林づくり推進課
				実施期間	R5 ～	E-mail ringyo@pref.nagano.lg.jp shinrin@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	Ⅲ 森林・林業活動に取り組む多様な人材・事業者への支援		小項目	7 森林サービス産業など森林の多面的利用の支援	

1 現状と課題

現状	○ 近年、森林空間を健康・教育・観光分野において活用する「森林サービス産業」は、山村地域の活性化策として期待されている。
課題	○ 本県の豊かな森林を維持していくためには地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要である。 ○ 森林所有者の関心の低下等により、森林との関わりが希薄になっている。 ○ 本県の魅力である里山の有効活用のため、地域の里山への関心向上を図る必要がある。

2 事業目的及び内容

森林の多面的な利活用を推進するため、健康・教育・観光分野の森林整備等に係る費用の支援や、企業との連携による森林整備の推進、森林セラピーに携わる人材の育成など、地域における主体的な活動を支援する。			
事業主体	長野県市町村等	補助率	－ 1/2～9/10

3 予算及び決算額

（単位：千円）

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	1,740	0	0	0	1,740	
	当 初 予 算	19,933	30,851				50,784	
	補 正 予 算	▲ 1,200					▲ 1,200	
	合 計	18,733	32,591	0	0	0	51,324	
決 算 額		16,604					16,604	
次年度への繰越（枠外）		1,740					1,740	

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値（R 9）	第4期目標達成率
①	森林サービス産業により組む地域プロジェクト数	目標	10PJ	10PJ				20PJ	50PJ	20%
		実績	10PJ					10PJ		
達成状況・成果等			※ PJ：「プロジェクト」の略。 ○ 森林空間・施設整備に係る補助などの活動支援や森林を核にした地域の魅力発信を行える人材の育成により、意欲的に森林サービス産業に取り組もうとする地域を掘り起こすことができた。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
☐ 現行どおり実施	① 森林サービス産業に携わる者の裾野を拡大するためには、事業者、利用者等、多様な主体が交流し、情報交換を行える場が必要。 ② 新たに森林サービス産業を創出する際に、起業や森林の利活用に関するノウハウが不足。起業に係る費用負担が大きい。	① 事業者や起業に関心のある者等、多様な主体が交流し、情報交換を行える場を作り、森林利活用に携わる者の裾野の拡大を図る。 ② 起業に関するセミナーの開催、専門家派遣による助言、起業時の費用の補助等、新たな森林サービス産業の創出を支援する。
☒ 見直して実施		
☐ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 民間でも多様な分野等でノウハウを持っている団体が多く存在しているので、連絡会議等の組織を整えて取組を進めてほしい。 ○ 森林は水源林として下流域にも恩恵をもたらしているので、下流域の企業等とさらに連携を深めてほしい。
-----------------	---

細事業一覧（令和5年度実施事業分）

事業名	⑩森林サービス産業総合対策事業			部局	林務部	課・室	信州の木活用課・森林づくり推進課
No.	細事業（取組）名						
1	森林サービス産業活動支援事業（森林空間整備・施設整備）			予算	9,500	決算	9,020
				千円		千円	
	実施方法	補助率	令和5年度実施内容				成果
	補助金	9/10以内 又は 1/2以内	森林セラピー等の安全性と利便性の向上のため、施設整備（歩道の補修、看板の設置等） 修景林整備（支障木等の伐採）に係る経費を支援				整備個所数 7箇所
No.	細事業（取組）名						
2	森林サービス産業活動支援事業（創業・地域活動支援）			予算	1,217	決算	816
				千円		千円	
	実施方法	補助率	令和5年度実施内容				成果
	委託	－	地域における森林空間の利活用を促進するため、森林サービス産業の創業を検討する地域や活動における課題を抱える地域に対し、専門家を派遣し活動を支援				創業・活動支援 7者
No.	細事業（取組）名						
3	森林サービス産業活動支援事業（企業連携活動）			予算	1,125	決算	628
				千円		千円	
	実施方法	補助率	令和5年度実施内容				成果
	直接	－	新規契約の締結に向けて企業との協議や、イベント等でパンフレットを配布しPRを実施。企業のニーズを踏まえて、地域とのマッチングを促進				契約件数 10件
No.	細事業（取組）名						
4	森林サービス産業活動支援事業（ニーズ把握調査等）			予算	1,044	決算	700
				千円		千円	
	実施方法	補助率	令和5年度実施内容				成果
	委託	－	森林サービス産業の普及・拡大を推進する新たな活動母体を構築するため、活動母体の制度設計に向けた調査、検討を実施				調査検討 1件
No.	細事業（取組）名						
5	森林サービス産業人材育成支援事業			予算	6,738	決算	5,439
				千円		千円	
	実施方法	補助率	令和5年度実施内容				成果
	委託	－	地域において森林サービス産業の推進に主体的に取り組める人材を育成するため、森林のガイドや森林を活用して地域を活性化するコーディネーターの育成研修を実施				育成研修 36回
No.	細事業（取組）名						
6	地球温暖化防止吸収源対策推進事業			予算	309	決算	52
				千円		千円	
	実施方法	補助率	令和5年度実施内容				成果
	直接	－	森林の里親促進事業で里親契約されている企業が実施した森林施業（間伐及び植林）による森林のCO2吸収量の認証を実施。				CO2吸収量 2,019 t -CO2

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）						
事業名	⑪ 信州ネイチャーセンター構築事業		部局	環境部	課・室	自然保護課
			実施期間	H30 ～	E-mail	shizenhogo@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	Ⅲ 森林・林業活動に取り組む多様な人材・事業者への支援	小項目	7 森林サービス産業など森林の多面的利用の支援		

1 現状と課題

現状	○ 県の強みである豊かな森林資源や森林空間を維持していくために、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要。 ○ 森林資源を有効に活用し、観光や環境、教育等の他産業と結び付け、地域を支える多様な産業や交流を創出できる人材を育成することが必要。
課題	○ 森林資源・空間の保護と利用の両立を目指す「エコツーリズム」の考え方に基づいたガイド人材の育成。

2 事業目的及び内容

森林をはじめとした自然環境を持続的に活用するため、中長期的に質の高いサービスを提供できるエコツーリズムガイドを育成する必要があることから、エコツーリズムガイドの人材育成を目的とした研修を実施。			
事業主体	長野県	補助率	—

3 予算及び決算額

(単位：千円)

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	1,900	2,000				3,900	
	補 正 予 算	0					0	
	合 計	1,900	2,000	0	0	0	3,900	
決 算 額		1,900						
次年度への繰越（枠外）								

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標 達成率
①	エコツーリズムガイドの 育成人数	目標	5人	5人				10人	25人	24%
		実績	6人					6人		
達成状況・成果等			○ エコツーリズムガイドの人材育成を目的とした研修を実施し、中長期的な活動が見込める世代の参加者が30名中、6名あった。 ○ 実践的な技術や知識の習得に加え、熟練の参加者との交流を通して、エコツーリズムガイドとして活動する将来像が具体化したという意見等があったことから、短期間でも効果的な研修になった。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
☒ 現行どおり 実施	○ 中長期的な活動が見込める世代のガイド人材の裾野を拡大するため、講師による実践的な技術や知識の習得に加え、ガイド実践者や熟練の参加者などとの交流による情報交換が行える場が必要。	○ 多様な世代との情報共有や交流等により実践的な内容の研修となるようカリキュラムを検討し、今後もガイド人材の育成に継続して取り組む。
☐ 見直して 実施		
☐ 事業を 終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 意見なし
-----------------	--------

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）					
事業名	⑫ 多様な林業の担い手確保育成事業		部局	林務部	課・室
			実施期間	R5 ～	E-mail rin-ninaite@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	Ⅲ 森林・林業活動に取り組む多様な人材・事業者への支援	小項目	8 多様な林業の担い手の確保・育成	

1 現状と課題

現状	○ 県内の林業系専科をもつ高校では、募集定員に達せず再募集を実施することも多く、将来の就林人口の確保と定着率のアップにつなげるためには、将来の職業を意識し始める中学生に対して職業としての林業を浸透させていくことが必要である。 ○ 多様化する森林へのニーズに対応し、山村地域の交流人口の増加を図るとともに、将来の林業就業者となり得る理解者の裾野の拡大に向けた支援策が必要である。
課題	○ 教育面からみると、小学校学習指導要領では「森林」を環境面で捉え取り上げられている一方で、中学校では森林や林業を学ぶカリキュラムがない。 ○ 小規模で地域の需要に柔軟に対応できる個人事業者等は、林業への新規参入が比較的容易で、他産業との兼業などにより、地域の林業を支える重要な担い手となり得るが、支援策が手薄となっている。

2 事業目的及び内容

○ 県内中学校に対する林業職場体験を推進していくため、実態調査の実施や説明会の開催及び中学生向けの動画教材作成等、実施に向けた支援 ○ 将来の林業就業者となり得る理解者の裾野拡大に向けた林業の認知度向上を目的としたイベント等の開催 ○ 地域の需要に柔軟に対応できる個人事業者等が実施する安全装備の導入及び福利厚生に対する取組や新規就業者の確保促進に向けた就業準備、他産業との兼業等の連携活動の支援			
事業主体	県 長野県林業労働力 確保支援センター	補助率	－ 10/10以内

3 予算及び決算額

(単位：千円)

区分 (単位：千円)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	11,530	18,953				30,483	
	補 正 予 算	▲ 6,530					▲ 6,530	
	合 計	5,000	18,953	0	0	0	23,953	
決 算 額		5,432					5,432	
次年度への繰越 (枠外)		0					0	

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	第4期目標 達成率
①	多様な林業に関わる 新規就業者数	目標	40人	40人				80人	200人	18%
		実績	※ 35人					35人		
達成状況・成果等			○ 林業就業者数は4年連続で増加となったが、多様な林業に関わる新規就業者数は目標達成に至らず、令和5年度から新規拡充した支援策の浸透について課題が見られた。 ○ 林業の認知度向上対策においては、将来林業の理解者となり得る裾野拡大を図る取組として、子ども・若者を中心に広く林業をPRする機会となった。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
☐ 現行どおり 実施	○ 事業の活用に関するアンケート調査を行ったところ、「補助制度を知らない」や「補助の対象かわからない」という回答が一定数みられた。 ○ 多様な林業の担い手を対象とした制度であることが認識されていない状況があるため、支援制度を含めた情報発信により注力する必要がある。	① 事業要件等を見直しながら引き続き支援制度を継続するとともに、林業の情報を統一的に発信するプラットフォームを整備するなど林業の認知度向上の取組みを強化する。 ② 農業と林業との連携や地域と連携した植林サポーターズなどのモデル的な取組みも見られたため、林業への多様な関わり方による担い手確保や、外国人材の活用に向けた検討にも取り組む。
☒ 見直して 実施		
☐ 事業を 終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 中学生を対象とした職場体験は将来的な人材確保に繋がる取組であり期待。親世代の価値観にもリーチする副読本やプログラムを検討してほしい。 ○ 小規模な事業者は人手が不足することも多く、補助金申請に係る手続きの省力化など敷居を下げてほしい。
-----------------	--

細事業一覧（令和5年度実施事業分）

事業名	⑫多様な林業の担い手確保育成事業				部局	林務部	課・室	信州の木活用課
No.	細事業（取組）名							
1	林業認知度向上対策（林業職場体験）				予算	2,094	決算	2,068
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容				成果	
	委託	－	○県内中学校（中信地区52校）に対する林業職場体験等の実態調査の実施及び林業事業者に対する林業職場体験推進に向けた説明会の開催 ○林業職場体験の実施に向けた支援として、中学生向けの動画教材を作成				実態調査 52校	
No.	細事業（取組）名							
2	林業認知度向上対策（支援センター補助）				予算	410	決算	1,434
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容				成果	
	補助金	10/10以内	長野市表参道秋まつりや伊那市中学生キャリアフェスなどのPRイベントに加え、長野県庁県民ホールでの展示など子ども・若者を中心として広く一般に林業PRを実施				PRイベント開催 2件	
No.	細事業（取組）名							
3	新規就業者確保促進支援				予算	5,541	決算	1,103
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容				成果	
	補助金	10/10以内	多様な林業の担い手が新規就業者を雇用した際に資機材等を準備する経費を支援				就業準備への支援 3者7名	
No.	細事業（取組）名							
4	安全福利厚生対策				予算	3,485	決算	827
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容				成果	
	補助金	10/10以内	多様な林業の担い手が取り組む安全装備の導入及び振動病特殊健診の受診や蜂アレルギー検査受診、退職金共済制度への加入等に対して支援				安全装備の導入 21名	

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）					
事業名	⑬ 市町村森林整備支援事業		部局	林務部	課・室
			実施期間	R5 ～	E-mail rinsei@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	Ⅳ 市町村と連携した森林等に関連する課題の解決	小項目	9 ライフライン等保全対策 他	

1 現状と課題

現状	○ 倒木によるライフラインへの被害による停電や交通への影響の他、野生鳥獣による人身事故等が発生しており、県民生活に影響を与えている。 ○ 手入れの遅れや森林病虫害被害等による観光地の魅力低下や、病虫害による枯損木が処理できず放置されている。
課題	○ ライフライン等を保全するための予防的な森林の整備・対策や野生動物が出没しない森林環境の整備が必要 ○ 観光地の魅力向上に向けた森林整備の推進や国庫補助の対象とならない森林病虫害被害・枯損木への対策が必要

2 事業目的及び内容

ライフライン沿いの森林整備や緩衝帯の整備、病虫害被害対策等、各地域の住民生活に直結する個別の課題に対して、地域の実状に精通した市町村がきめ細やかな対応を行う必要があることから、市町村が実施する個別の課題解決に向けた森林整備の取組を支援する。			
事業主体	市町村	補助率	1/2～9/10

3 予算及び決算額

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0				0	
	当 初 予 算	166,512	175,300				341,812	
	補 正 予 算	▲ 6,962					▲ 6,962	
	合 計	159,550	175,300	0	0	0	334,850	
決 算 額		148,415					148,415	
次年度への繰越（枠外）								

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	達成率
①	ライフラインの保全 箇所数	目標	50箇所	30箇所				80箇所	150箇所	39%
		実績	59箇所					59箇所		
②	観光地の景観整備 箇所数	目標	20箇所	20箇所				40箇所	100箇所	28%
		実績	28箇所					28箇所		
③	緩衝帯の整備 箇所数	目標	20箇所	38箇所				58箇所	100箇所	20%
		実績	20箇所					20箇所		
④	森林病虫害の 被害木処理材積	目標	1,080m³	1,080m³				2,160m³	5,400m³	9%
		実績	471m³					471m³		
⑤	森林病虫害の 枯損木利活用材積	目標	2,000m³	2,000m³				4,000m³	10,000m³	8%
		実績	832m³					832m³		
達成状況・成果等			①～③ 目標以上の箇所での対策を実施。ライフライン沿いの危険木や緩衝帯等が整備され、住民の生活に身近な森林が与えている不安の解消に寄与した。 ④・⑤ 森林病虫害被害を受けている市町村での被害拡大対策に柔軟に活用されたが、処理量は想定を下回り、目標を達成しなかった。 枯損木が景観を害したり、集落等に影響を与えそうな箇所において、安全を確保しつつ資源としての有効活用が図られるなど、生活・社会両面の抱える問題や課題の解消に寄与した。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり 実施 □ 見直して 実施 □ 事業を 終了	① 野生動物による人身事故や台風・大雪等で発生した倒木によるライフライン被害の発生を受け、事業ニーズが高まっている。 ② 枯損木利活用の対策では、通常の伐採より作業の危険性が高くなる場合も多く、1箇所当りの経費が比較的高額となる傾向にあり、処理量が低調となっている。 ③ 対象市町村での森林病虫害の被害発生量が想定より少なく、実績は目標に対して低調となった。	① ニーズの増加を踏まえ、各市町村の状況を詳細に聞き取りながら、取組を加速化するために計画を前倒して早期に実施することを含めて検討する。 ② 機械活用等より効率的・経済的に実施している事例を収集・共有するなど、より多くの箇所で早期に事業実施できるよう努める。
県民会議・地域会議等からの意見	○ 市町村として住民からも求められている取組であり、成果も見えやすいと感じる。 ○ 枯損木の利活用など再生可能エネルギーとして利用するゼロカーボンに資する取組であることをアピールすべき。	

細事業一覧（令和5年度実施事業分）

事業名		⑬市町村森林整備支援事業			部局	林務部	課・室	森林政策課
No.	細事業（取組）名							
1	ライフライン等の保全対策				予算	66,600	決算	69,439
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容					成果
	補助金	9/10	電線や道路などのライフラインへ被害を与える危険性の高い立木の伐採に係る経費を支援					整備箇所数 59箇所
No.	細事業（取組）名							
2	観光地の景観整備				予算	24,192	決算	34,810
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容					成果
	補助金	9/10	観光地等の修景林間整備や眺望確保のための伐採などの地域の魅力向上を図るために実施する森林整備に要する経費を支援					整備箇所数 28箇所
No.	細事業（取組）名							
3	緩衝帯の整備				予算	15,660	決算	15,107
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容					成果
	補助金	9/10	野生鳥獣による被害を防止するために行う、林内の除伐や刈り払い等による緩衝帯の整備に要する経費を支援					整備箇所数 20箇所
No.	細事業（取組）名							
4	森林の病虫害被害対策 （森林外・未被害市町村被害木処理）				予算	20,460	決算	7,733
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容					成果
	補助金	1/2	国庫補助の対象とならない森林外で確認された松くい虫被害木や未被害市町村での松くい虫被害木に係る伐倒駆除に要する経費を支援					処理量 471m3
No.	細事業（取組）名							
5	森林の病虫害被害対策（枯損木の利活用）				予算	39,600	決算	21,326
					千円		千円	
	実施方法	補助率	令和５年度実施内容					成果
	補助金	9/10	森林病虫害により被害を受け枯損した木を伐採・搬出し、チップ等として有効活用する取組に要する経費を支援					利活用材積 832m3

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）					
事業名	⑭ 河畔林整備事業		部局	建設部	課・室
			実施期間	H30 ～	E-mail kasen-chisui@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	Ⅳ 市町村と連携した森林等に関連する課題の解決	小項目	10 河川沿いの支障木等伐採	

1 現状と課題

現状	○ 河川区域に隣接する河川区域外（民地）の立木地（河畔林）は、所有者の手入れが行き届かず、密生した細く倒れやすい木が豪雨時に流れて、橋梁部で川をせき止めるなど、洪水被害の発生や拡大の要因となる恐れがある。
課題	○ 洪水被害の発生や被害拡大を防止するため、河川へ倒木・流出する恐れのある立木等の除去が必要

2 事業目的及び内容

洪水時の流出木を減ずることで、洪水被害を未然に防止・軽減するため、河畔林における除間伐を実施する市町村の取組を支援する。			
事業主体	市町村	補助率	9/10

3 予算及び決算額

（単位：千円）

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	39,375	40,050				79,425	
	補 正 予 算	0					0	
	合 計	39,375	40,050	0	0	0	79,425	
決 算 額		38,510	0	0	0	0	38,510	
次年度への繰越（枠外）		0					0	

※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 （R 9）	第4期目標 達成率
①	整備箇所数	目標	14箇所	14箇所				28箇所	70箇所	27%
		実績	19箇所					19箇所		
達成状況・成果等			○ 目標以上の箇所での河畔林整備を実施し、地域の抱える水害リスクの軽減に寄与した。							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
☒ 現行どおり実施	○ より効果的な事業実施につなげるには事業箇所の選定が重要であり、洪水被害の発生・拡大要因となる恐れが大きく、緊急性の高い箇所の選定に際して、市町村への支援・協力が必要。	○ 被害発生のリスクのある箇所は各地に存在することから、市町村と連携し、引き続き目標達成に向けて取り組む。
☐ 見直して実施		
☐ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ 河畔林が整備されることで、野生鳥獣の移動経路となる場所の緩衝帯としての効果も期待できる。
-----------------	--

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和5年度事業）						
事業名	⑮ みんなで支える森林づくり推進事業			部局	林務部	課・室
				実施期間	H20 ～	E-mail rinsei@pref.nagano.lg.jp
基本方針に示す項目	大項目	Ⅴ 普及啓発、評価検証		小項目	13 森林づくりを推進するための普及啓発、森林税事業の評価・検証	

1 現状と課題

現状	○ 県政アンケートでは、森林税の使途が分からないと回答した方が87%に及び、特に若年層の理解が広がっていない。 ○ 県民会議、各圏域での地域会議等による森林税活用事業の評価・検証を実施。
課題	○ 森林税に関する県民の理解を一層広げ、特に理解が薄い層への効果的な広報が必要。 ○ チェック機能を強化しつつ、引き続き県民会議・地域会議による森林税活用事業の評価・検証が必要。

2 事業目的及び内容

○ 森林の役割や森林づくりの重要性等について県民の理解を深めるとともに、森林づくりの取組が進むよう、様々な媒体やイベントなどによる広報及び森林税の見える化を図るため、地域の実状に応じた広報・普及啓発を実施。 ○ 森林税活用事業の内容や実施結果の評価検証に対して意見を聴くため、県民会議及び地域会議を開催。			
事業主体	県	補助率	—

3 予算及び決算額

(単位：千円)

区分（単位：千円）		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	備 考
予算額	前年度繰越	0	0	0	0	0	0	
	当 初 予 算	8,200	8,526				16,726	
	補 正 予 算	0					0	
	合 計	8,200	8,526	0	0	0	16,726	
決 算 額		6,005	0	0	0	0	6,005	
次年度への繰越（枠外）		0					0	
※上表は取組に係る財源のうち、森林づくり県民税分を記載している。								

4 指標及び達成状況等

No.	成果指標		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	合計	目標値 (R 9)	達成率
①	森林税の使途 認知度	目標	40%					40%	40%	33%
		実績	13%					13%		
達成状況・成果等			○ 地域の実情に応じて物品の制作やラジオ、SNS、動画共有サイト、イベント等による広報を実施 ○ 若い世代への普及を進めるため、県内大学の学生との意見効果などを実施し、内容を踏まえた広報を実施							

5 今後の取組の方向性等

方 針	課題・要因分析	評価・今後の方向性
■ 現行どおり実施	① 20代の使途の認知度は約10%と、全体の中で最も低い結果となっており、発信する相手方を定めた、デジタル媒体等での取組発信が求められている。 ② イベントや広報誌でのP Rは実施していたが、県民が普段目にする場所での広報が不足していた。	① R5年度に大学生からいただいた「情報を絞った広報」「日常に溶け込む広報」等の意見を、R6年度以降の広報に取り入れ普及啓発に取り組む ① 県民が受動的に情報を受け取ることができるプッシュ型の広報を実施（駅・街中でのP R等） ② 地域広報誌やラジオ等での広報については継続的に実施
□ 見直して実施		
□ 事業を終了		

県民会議・地域会議等からの意見	○ どのようなことに活用できるのか、利用者目線での情報発信に努める必要がある。 ○ 森林税を活用した現場や施設等で訪れた人がわかるようにアプローチするとよい。
-----------------	--